

中学校 国語科学習指導案

授業者 古田尚行

日 時	2017年7月5日(水) 第1時限 8時40分～9時30分
場 所	第1研修室
学年・組	3年A組 (男子 24名 女子 22名 計46名)
使用教材	菊池寛「形」(『新編 新しい国語3』東京書籍所収)
目 標	「語り」の効果を考える。

教材観

菊池寛の「形」は、『常山記談』(江戸中期)を原典とする歴史小説で、大正9年に「大阪毎日新聞」で発表された作品である。「形」の効用を表面化させた作品である。授業においては「形」と「中身(心、内面)」との関係を捉えたり、身の回りにある「形」について考えさせたりすることが一つの学び方としてあるだろう。

ところで、花田俊典は「形」を読むことについて次のように述べている。

「わたしたちは人生の表側では、なによりも内容(こころ)が大切だと信じつつ、一方でリッチでカッコいい外見を追い求めている。いかにも、これは矛盾である。ただし、矛盾しているから悪いというのではない(この矛盾状態こそが人間一般の自然状態であるという意見もあろう)。しかと見つめるべき肝要な問題は、このように、いかに人間が矛盾にみちた存在でありながら、このことに無自覚に平然と日常生活(人生の表側)を過ごしているかということである。「形」の中村新兵衛は、猩々緋の服折と唐金の兜という過剰な〈形〉を脱いだとき—いわば〈裸の王様〉になったとき—、この虚妄の構造に思い至ったのである。ということはつまり、この小説は〈形〉が大切だとか、〈内容〉の伴わない〈形〉はむなしとか、あるいは〈内容〉も大切だが〈形〉も大切だとか、そんな結論めいた結論をとおしこして、ここにひとつの問題の所在があることを読者に向かって喚起していることになる。したりげな解答は用意されていない。再読されるゆえんである。」

授業では花田の言を踏まえながら読解していくが、一方でこうした「形」を「語る」ことの意味についても生徒たちと考えてみたい。すなわち、誰が誰に何を語っているのかを授業の中で明らかにしていく。

学習目標

- 1 辞書を用いて語句を調べ、意味や用法を理解し、読解ができる。
- 2 叙述や構成をおさえ、小説の工夫を捉えることができる。
- 3 「形」を「語る」ことについて考えることができる。

学習計画(全4時)

一次 「形」の読解…3時間

二次 「形」について考える…1時間(本時)

本時の学習目標

- 1 本文の構造を捉える。
- 2 「形」を「語る」ことについて考える。

本時の学習指導過程

学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
1 小説全体の構造を整理する	<p>・前時までの学習を想起して、どのようなストーリーの小説であったのかを確認させる。</p> <p>① 「形」の具体 ② 敵から見た「形」の力 ③ 中村新兵衛から見た「形」の力 ④ 松山新介の子から見た「形」の力</p>	<p>ノートを振り返り、まとめているか。行動観察。</p>
2 語り手が「形」で達成できたことを考える。	<p>・「形」の中の「形」の諸相を表面化させる。</p> <p>⑤ 「形」の中の「形」を指摘させる。 ⑥ それぞれの「形」について考えさせる。 ⑦ 「形」を語ることの意味を考えさせる。</p> <p>問い：「形」の力に一番に気づいたのは誰か。</p>	<p>本文から根拠を探そうとしている。</p>
3 本時のまとめと次時の予定を聞く。	<p>・私たちの現実生活の中で、「形」はどのように存在しているのかを考えることを伝える。</p>	<p>身の回りのことから答えようとしている。</p>

実践上の留意点

1. 授業説明

一般に外部と内部とは相互補完的なものであるが、本教材が授業で扱われる際にはこの外部としての「形」の恐ろしさやその効果について身近な具体例、社会で見られる「形」を探し出すことが多いように思われる。これは教材内容に即したものであり意義はあるが、本授業ではそれに加えて、このような話を語る語り手に注目して読むことにより、言葉が語られていく、言葉を語ることがどのような意味を持つのかを考えることを目標とした。語られた内容に注目するのではなく語るという行為そのものに注目することが、自分たちが普段行っている行為についての内省につながる。こうした自覚があるだけでも、何を語っているか、逆に何を語っていないか（語り得ていないかも含む）の問題領域に意識を向けることができよう。

なお、この日は「教育実習入門」の日とも重なり、大学1年生に対する示範授業でもあった。そのため、授業者からの説明は極力抑え、生徒への問いかけとその返答、共有、さらなる問い、という流れを意識しながら授業を行った。いずれ教育実習生としてやってくる学生に向けたメッセージである。

2. 研究協議より

- ・表現の特徴やその効果を活かしていくと、物語世界がどのように作者によって色づけられているかがより具体的に指摘ができる。ただし、語り手の問題と作者の問題と複雑になっていくため、語り手＝作者という方便も必要となる局面もある。
- ・最後に『『形』の力に一番はじめに気づいたのは誰か』ということを読み込んでいけばよかった。「語り手」の問題としてこの教材を読み解いていく方が面白い。「気づいた人」で順番に並べていき、それを踏まえながら再度読み返していくと別の意味が生まれてくる。
- ・中村新兵衛に注目するだけでなく、他の人物にも注目していくと「形」の様々な効果や意味がわかってくる。